

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	沖縄県
-------	-----

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	本部町立本部小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	4	3	3	3	3	1	20	29
児童数	84	96	81	85	105	107	4	562	

研究の概要

1. 研究主題 (テーマ)

「生きる力」の育成を目指し、児童一人一人に確かな基礎学力を身につけさせる。  
 ~ 校内研修, 教科担任制, 少人数指導等の充実を通して ~

2. 研究内容と方法

(1) 実践研究の内容について

( ) 取り組みの柱

校内研修の取り組み・・・検証授業(指導案・教材)に関すること等  
 学習部の取り組み・・・家庭学習・読み書き計算の実態調査  
 教科担任制(6学年)・・・教科担任制の指導方法の工夫・改善  
 少人数指導(4、5、6学年)・少人数指導の指導方法の工夫・改善  
 その他(読書指導, 補習指導, ようこそ先輩)

( ) 実践研究の方法

校内研修の取り組み

- ・国語部会, 算数部会の2部会を設け研究を推進
- ・前学年の到達テストによる実態調査
- ・検証授業による授業の工夫・改善

学習部の取り組み

- ・学期毎に漢字、計算の実態調査
- ・家庭学習の実態調査

教科担任制

実施学年・・・6学年

実施教科・・・国語、社会、家庭科、図工、理科、音楽、書写

各学級の理科・音楽・書写は専科の教員が受け持つ。

少人数指導

実施学年・・・4学年、5学年、6学年

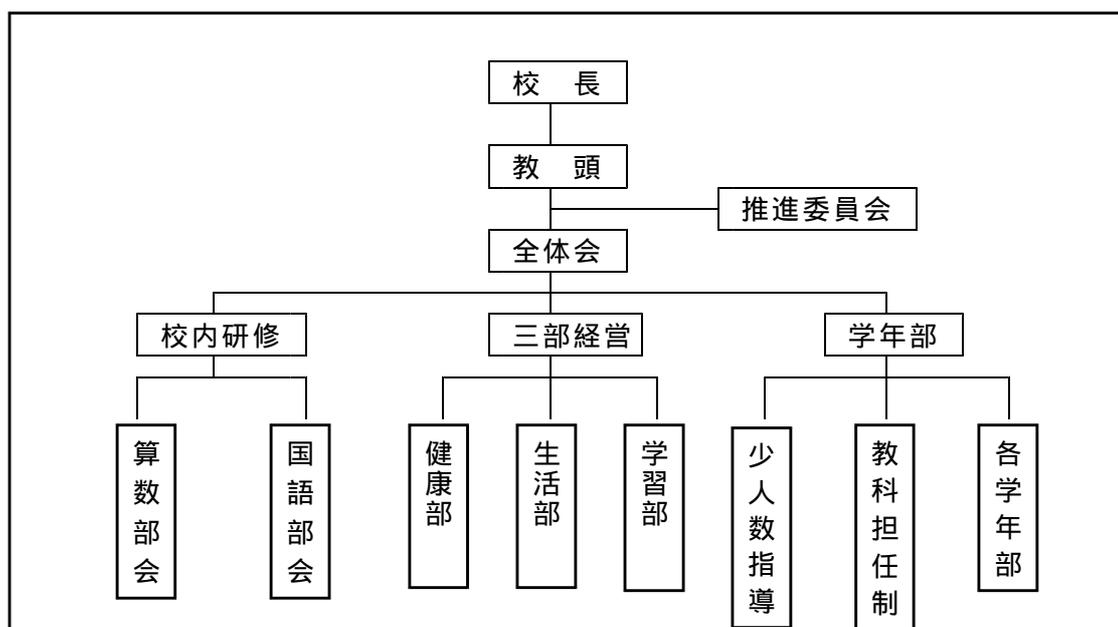
実施教科・・・算数

実施方法・・・各学級を2つのグループに分け、担任と少人数加配教諭で指導。  
 単元により習熟度別に編成したり、等質に編成したり児童の実態にあわせ指導。

(2) 年次ごとの計画

平成 15 年度	<p>研究の見通し(仮説) 校内研修を充実させ「わかる授業」を展開することにより、児童一人一人に確かな基礎学力を身につけさせることができるであろう。 少人数指導等、個に応じた指導方法の工夫・改善を図ることですべての児童に基礎・基本を確実に身につけさせることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>【校内研修】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・前学年の到達テスト(国語・算数)による実態を分析し、今後の手だてを考える。</li><li>・国語部会、算数部会による検証授業(指導案・教材)に関すること等。</li></ul> <p>【学習部】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・家庭学習の実態を調査し、保護者との連携や家庭学習の与え方を工夫する。</li><li>・「マスターシート」より基本的な漢字や計算問題を抽出し、全学年学期毎に「漢字力テスト」「計算力テスト」を作成(2学期より)し実施する。合格基準を決めクリアするまで繰り返し指導をする。</li></ul> <p>【教科担任制】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・教科担任制の指導方法の工夫・改善を図る。</li><li>・次年度に向け実施学年や実施教科等について検討する。</li></ul> <p>【少人数指導】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・少人数指導の指導方法の工夫・改善を図る。</li><li>・次年度に向け実施学年や授業形態等について検討する。</li></ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ホームページを作成し、本校の取組を発信する。</li><li>・全学年の「マスターシート」を領域毎に分類した棚を設置し、補習の時間等に活用できるようにする。また、領域毎に個人カードを作成し合格するまで繰り返し学習する。</li></ul>
平成 16 年度	<p>研究の見通し(仮説) 校内研修を充実させ「わかる授業」を展開することにより、児童一人一人に確かな基礎学力を身につけさせることができるであろう。 少人数指導等、個に応じた指導方法の工夫・改善を図ることですべての児童に基礎・基本はもとより、個に応じた学力を身につけさせることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>【校内研修】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・前学年の到達テスト(国語・算数)による実態を調査し、前年度の実態と比較検討し今後の手だてを考える。</li><li>・国語部会、算数部会による検証授業(指導案・教材)に関すること等。</li><li>・問題解決学習やコース別学習、評価の方法についてさらに研究を深める。</li></ul> <p>【学習部】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・家庭学習の実態を調査し、保護者との連携や家庭学習の与え方を工夫する。</li><li>・「マスターシート」より基本的な漢字や計算問題を抽出し、全学年学期毎に「漢字力テスト」「計算力テスト」を作成(年間通して検討)し実施する。合格基準を決めクリアするまで繰り返し指導する。</li></ul> <p>【教科担任制】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・教科担任制の指導方法の工夫・改善を図る。</li><li>・次年度に向け実施学年や実施教科等について検討する。</li></ul> <p>【少人数指導】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・少人数指導の指導方法の工夫・改善を図る。</li><li>・次年度に向け実施学年や授業形態等について検討する。</li></ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ホームページの内容を充実させ、本校の取組を発信する。</li><li>・「マスターシート」の活用の仕方を工夫する。</li></ul>

### (3) 研究推進体制



#### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

##### 1. 研究の成果

校内研修の取り組みとして、前学年の到達テストで実態調査を行い、本校の課題を明確にし国語部会・算数部会に分かれて授業研究を進めることができた。

4年・5年・6年の算数に少人数指導を取り入れ、単元により習熟度別編制や等質編制にして取り組んできた。どの学年も各単元の達成目標点数をおおむね達成できた。

各学年のマスターシートより学期毎の基礎・基本を抜き出し各学期毎の「漢字力テスト」「計算力テスト」を作成し、2学期より実施することができた。

全学年の算数のマスターシートを領域毎に分類し、それを棚の中に常時準備しておき、いつでも使えるようにした。

金曜日の6校時に補習の時間を位置付け、各学年を習熟度別クラスに編制し全職員協力のもとマスターシートを活用して取り組むことができた。また、領域毎に個人カードを作成し合格するまで繰り返し学習することができた。

フロンティア新聞やホームページを作成（ネット上には3月末の予定）し、本校の取組を紹介することができた。

##### 2. 今後の課題

教科担任制の実施学年や実施教科等の研究や指導方法の工夫・改善。

少人数指導の指導体制等の研究や指導方法の工夫・改善。

指導に生かす評価の在り方についての研究。

家庭学習の効果的な与え方について学校での共通理解と保護者との連携。

#### 学力等把握のための学校としての取組

##### 1. TK式全国標準学力検査

毎年3年生・5年生に実施し、校内研修で結果を分析し今後の指導に生かしている。

##### 2. 前学年の到達テスト

5月に前学年の到達テスト（国語・算数）を行い、本校の課題を明確にして校内研修の国語部会・算数部会の研究の進め方を確認した。

##### 3. 漢字力テスト・計算力テスト

各学年のマスターシートより学期毎の基礎・基本を抜き出し各学期毎の「漢字力テスト」「計算力テスト」を作成し学期末に実施する。各学年の漢字力・計算力を高めるとともに実態把握の資料としても活用できる。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1. 平成15年11月21日(金)本部町学対「第3回幼小中高合同授業研」で本校のフロンティアスクールの取り組みを紹介。
2. 平成16年1月28日(水)本部町学対実践発表会において本校のフロンティアスクールの取り組みを資料発表。
3. 平成16年2月13日(金)校区学対実践発表会において本校のフロンティアスクールの取り組みを発表予定。
4. フロンティア新聞やホームページを作成(ネット上には3月末の予定)し、本校の取組を紹介した。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	